

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 香月 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日(木)に、「教科(国語、数学に関する調査)」、文部科学省が指定した日(4月14日から4月17日の間)に「教科(理科に関する調査)」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 調査内容

### (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

### (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

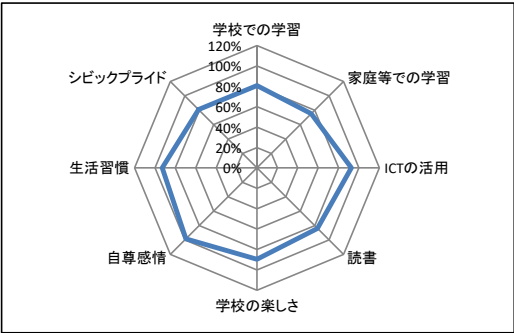
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	文章を読み解くことを得意としている生徒が多い。一方で、自分の考えを文章での表現を苦手としている生徒が多い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	文章中の内容を読み取る問題に関しては、全体的によくできている。	下回っている
	努力が必要な問題	自分の考えを文章で表現する問題が苦手な生徒が多く、無回答率も高い。	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均の正答数の7問を上回っている生徒が2割以上いる一方で、基礎的な知識や概念の定着が苦手な生徒が多く、正答数が4問以下の生徒が全体の半分を占めている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	7(1)、(2)のような身近な事象を考える問題はよく解くことができています。	下回っている
	努力が必要な問題	6(2)、(3)、のような理論的に説明することが苦手な生徒が多い。	
理科	全体的な傾向や特徴など	2年生の内容や、比較的直近にしている単元に関しては、正答率が高い結果だった。一方で生物のような1年生の単元では正答率が低い結果だった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	9(2)の気圧の問題は県平均を上回る正答率だった。	下回っている
	努力が必要な問題	1年生の単元の問題では、正答率が低い結果となった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の質問に対して肯定的な回答を行った生徒が全国平均よりも高い数値となった。 ・学校での学習や、家庭学習、読書、ICTの活用といった学習面に関しては、全国平均よりも低い数値となっており、今後も学習習慣の定着を図ることが、本校の課題といえる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・コグトレを朝自習に行い、認知能力トレーニングを通して、教科指導につなげる。
- ・放課後の時間を利用して、教科指導の補充学習を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・計画的な家庭学習の実現に向けて、ICTを活用した家庭学習の提案や放課後自習教室の充実を図る。
- ・各家庭の協力のもと、規則正しい生活習慣の継続ができています。これまでと同様に、「早寝・早起き・朝ごはん」等の安定した生活リズムづくりをお願いします。